

21 明治期における医学図書館の設立

寺 畑 喜 朔

金沢医科大学

明治五年の学制、同七年の医制が欧米の制度を範として公布され、日本の識者は西洋医学の導入を積極的に推進した。一方、医育機関の充実とともに専門分野の発達が顕著となり、全国規模の学会が設立された。同二十年大日本教育会が神田に付属図書館を開館し、各地に図書館設置の気運が展開され、この状況下で医師らによる医学図書館の開館が醸成された。

一、成医会文庫

明治十三年英国留学から帰国した高木兼寛は東京医学会の松山棟庵と協議し、翌年成医会を設立、同会の重要目的に医書を蒐集し文庫を設置することを挙げた。同十七年に成医会月報を発行し欧米諸国機関との交換を開始、翌十八年高木が中心となり、池田謙齋、長与專齋、

三宅 秀、ヘボン、ホイット二、エルドリッジを設立委

員とし、京橋新着町に「成医会文庫」を設立した。この文庫の英文名は Tokyo Medical Library (東京医学図書館) である。発足当初は日本医書類約六〇〇(一六〇〇)、欧米医書類約三〇〇(二〇〇〇)、欧米誌類約四七〇(二〇〇〇)の文庫概要である(カッコ内は明治三九年)。明治十四年設立の成医会講習所以来、文庫は現在の東京慈恵会医科大学図書館に保存管理されている。

二、好生館横井文庫

陸軍軍医監横井信之は明治十年医育機関として好生学舎を設立(病院は同十二年併設)、同十二年春に公立愛知医学校長に任じられたが、病のため後藤新平を後任として校長を辞任した。同二八年好生館の佐藤勤也、北川乙治郎、鈴木義雄らは横井の業績を顕彰し、好生館に隣接し、横井文庫を設立した。前年には「好生館医事研究会雑誌」を発刊している(昭和十七年廃刊)。文庫は好生館とともに保存されていたが、太平洋戦争で両者とも灰燼に帰した。

三、日本医学図書館

遠山椿吉、川上昌保、川上元治郎の発起により明治

三二年神田美土代町に設立開館した。同三五年帝國教育会の理事の川上昌保の提案により、同図書館は帝國教育會書籍館とを合併し、約二五〇〇冊の蔵書が移された。この組織は戦後日本教育会となり、さらに日本教職員組合と変遷するが、関東大震災の際焼失紛失した。

四、大阪医学図書館

明治三二年大阪医学校助教諭石川喜直らが中心となり大阪医学図書館会が組織され、諸規則を定め大阪商品陳列所図書室を借用して医学図書館は開館した（大阪医学校内に事務所）。のち新築された大阪府立図書館へ図書は委託された。現在、明確な保存状況は把握されていない（目録あり）。

五、京都医学図書館

明治三二年京都府医学校の校友会の発起により校友会会員、京都医学会会員、篤志家より図書の寄贈（二五〇〇冊）寄付金（一〇〇〇円）を募り同校内に設立された。大正末には校内各教室に分散保存の医書は中央図書館に集約され、現在にいたり保存管理されている（目録あり）。

六、洪庵文庫

洪庵没後四十年を経て明治三四年長与專齋、大島圭介らの発起により西区新町の緒方病院内に設立事務所を設けたが、発足後の経緯などを示す史料は未だ発見はない。今後の検索に期待したい。

七、長与衛生文庫

明治三二年長与專齋の還暦を記念し功績を顕彰し有志らにより長与衛生文庫の設立が計画され、長与の没後明治三七年に大日本私立衛生会に設立された。同衛生会は時代の変遷とともに（財）日本衛生会（昭和六）、戦後は（財）日本公衆衛生協会と組織換えされた。同文庫は関東大震災の際、焼失した。

以上の他、明治三三年に広島医学図書館、福岡の玄洋医会文庫などの設立趣旨広告や記録の一部をみるが、詳細な経緯は不鮮明でない。